

公開シンポジウム「人文社会科学の役割と責任を問う」案内ほか

公開シンポジウム「人文社会科学の役割と責任を問う」 - 混迷する
現代社会において人文社会科学は何をなすべきか - の開催（ご案内）

市民的教養の解体、社会的正義の危機、公共的論理の崩壊が叫ばれる現代日本の社会状況において、人文社会科学に携わる私たちは何をなすべきか。市民の生の声と第一線で活躍する研究者の生の声を交流し、人文社会科学の役割と責任を問い直す。

1 日 時 12月14日（木）13:30～17:30

2 場 所 ホテル阪急インターナショナル4階 月華の間

3 主 催 日本学術会議第一部

4 共 催 関西学院大学

5 プログラム

挨 拶 鈴村興太郎（一橋大学経済研究所教授、日本学術会議副会長）

広渡 清吾（東京大学社会科学部研究科教授、
日本学術会議第一部部長）

司 会 江原由美子（首都大学東京都市教養学部教授、
日本学術会議第一部幹事）

趣旨説明 佐藤 学（東京大学大学院教育学研究科教授、
日本学術会議第一部副部長）

報 告 者

高橋義人（京都大学大学院人間・環境学研究科教授、
日本学術会議連携会員）

「文学と人生観 - 諸学の基礎となる学 - 」

小林傳司（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授、
日本学術会議連携会員）

「科学技術に踏み込む人文社会科学」

塩沢由典（大阪市立大学大学院創造都市研究科教授、
日本学術会議連携会員）

「危機管理における社会科学の役割 / 稀な異常事態にいかに対応するか」

竹内 洋（関西大学教授、日本学術会議連携会員）

「人文社会科学の下流化・オタク化と大衆的正統化」

コメンテーター

唐木英明（東京大学名誉教授、日本学術会議第二部部長、獣医学）

「安全・安心研究分野からの期待」

海部宣男（自然科学研究機構国立天文台名誉教授、
日本学術会議第三部部長、天文学）
「天文学・基礎科学と人文社会科学」

閉会の挨拶

小林良彰（慶應義塾大学法学部教授、日本学術会議第一部幹事）

参加申込方法：FAX、E-mail 又ははがきにて必要事項（氏名（ふりがな）・
職業・連絡先電話番号・E-mail アドレス）をご記入の上、
以下の問い合わせ先担当宛にお申し込みください。
定員となり次第、締め切りとさせていただきます。

【問い合わせ・申し込み先】

日本学術会議事務局参事官室（審議第一担当）松本、河野
〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34
TEL:03-3403-5706 FAX:03-3403-1640 E-mail : s251@scj.go.jp

詳細は、日本学術会議の以下のホームページを御覧ください。
(<http://www.scj.go.jp/ja/event/pdf/29-s-1.pdf>)

平成 21 年度（2009 年度）開催国際会議に係る
日本学術会議共同主催の募集について（まもなく締切です）

日本学術会議では、学術の振興を図り、我が国と各国の学術研究団体・研究者が最新の情報を交換し、世界の学術の進歩に寄与することが重要であるとの観点から、日本国内で開催する重要な国際会議について支援を行うため、学術研究団体との共同開催を行っています。

現在、平成 21（2009）年度に開催を予定する国際会議を対象に共同主催の募集を行っておりますが、募集の締め切りは、平成 18 年 11 月 30 日（木）となっております。

当該制度への申請を希望する国内学術研究団体は、募集期限に留意の上、申請をお願いします。

申請に関するご質問・ご相談は、以下の担当部署までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

日本学術会議事務局参事官(国際業務担当)付国際会議担当
TEL:03-3403-5731 E-mail:i254@scj.go.jp

日本学術会議が行う共同主催国際会議詳細
(<http://www.scj.go.jp/ja/info/kyodo/>)

第6回産学官連携サミット（報告）

日時：2006年11月20日（月）

場所：赤坂プリンスホテル

テーマ：「イノベーション創出に向けた産学官の役割と連携の新たな展開」

今回の産学官連携サミットは、日本経済の成長に貢献するイノベーションの創造に向け、産学官の役割と連携の新たな展開について議論を行うことを目的に開催され、約900名が参加しました。

日本学術会議は、内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、日本経済団体連合会と共に、毎回このサミットを主催しています。金澤一郎会長が、主催者挨拶を行い、全体ディスカッションでは、黒川清内閣顧問（前会長・連携会員）が、モデレータを務めました。パネルディスカッションでは、連携会員でもある小宮山宏東京大学総長、阿部博之総合科学技術会議議員、笠見昭信日本経済団体連合会産業技術委員会科学政策部長、東芝常任顧問等が発表し、全体ディスカッションのパネリストを務めました。

主な論点は、以下のとおりでした。

- ・基礎研究と産学官連携のバランス（イノベーションにおけるボトムアップとトップダウン）
- ・イノベーションに向けた人材育成（チャレンジ精神、ものづくりの重要性、大学院教育、小・中・高校からの理数教育、理科の得意な教員の養成）
- ・新しいフェーズへ（日本における課題解決から地球的課題を解決していく日本発イノベーション、大学の「大相撲化」(真の国際化)）
- ・その他（ベンチャー育成・支援、地域イノベーションなど）

サミットの詳細については、以下のホームページを御覧ください。

<http://www.dori.jp/summit6/>

日本学術会議ニュースメールは、日本学術会議第20期会員・連携会員、日本学術会議協力学術研究団体に配信しています。転載は自由ですので、関係団体の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らいください。

また、メールアドレスの変更等がありましたら、事務局（p228@scj.go.jp）まで御一報いただければ幸いです。

発行：日本学術会議事務局 <http://www.scj.go.jp/>

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34